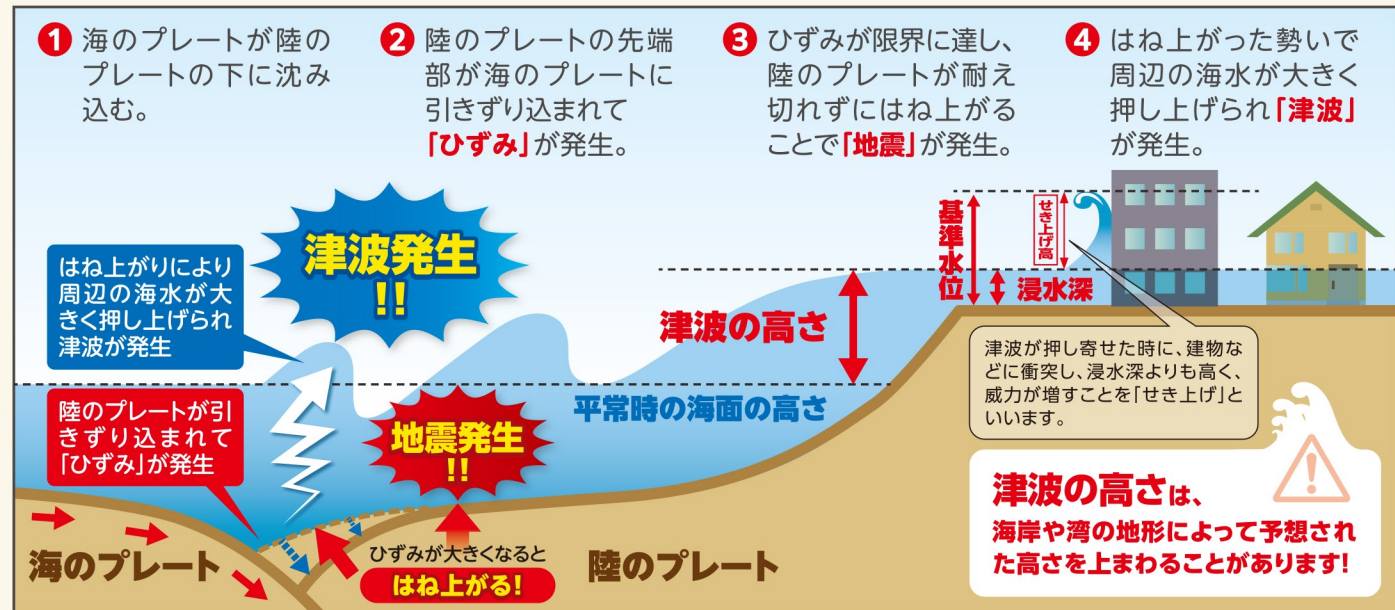


津波災害への備え!

津波はどうして起こるのか?

津波は海底で発生した地震に伴う海底の隆起・沈降、地すべり、海底での地崩れ、海底火山の噴火などによって引き起こされます。海底で起きた現象によって、海水が陸地に押し寄せる現象を「津波」といいます。



津波に関する警報・注意報とは?

沿岸の海域で地震が発生し、津波による災害が予想された場合、地震発生後およそ3分で警報及び注意報が発表されます。警報・注意報が発表された場合は、「海岸から離れ、高台などのより高い場所へ」避難しましょう。



	発表基準	発表される津波の高さ		想定される被害と取るべき行動
		数値での発表(津波の高さ予想の区分)	巨大地震の場合の発表	
大津波警報	予想される津波の高さが高いところで3mを超える場合	10m超 (10m<予想高さ)	巨大 [「巨大」予想の場合は、東日本大震災のような津波が襲うおそれがあります]	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれます。 沿岸部や川沿いにいる人は、直ちに高台など安全な場所へ避難してください。
		10m (5m<予想高さ≤10m)		
		5m (3m<予想高さ≤5m)		
津波警報	予想される津波の高さが高いところで1mを超え、3m以下の場合	3m (1m<予想高さ≤3m)	高い	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。 沿岸部や川沿いにいる人は、直ちに高台など安全な場所へ避難してください。
津波注意報	予想される津波の高さが高いところで0.2m以上、1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合	1m (0.2m≤予想高さ≤1m)	(表記しない)	海の中では人は速い流れに巻き込まれ、小型船舶が転覆します。 海の中にいる人は直ちに海から上がって、海岸から離れてください。

津波が発生したら、すぐに避難を開始!



津波災害の避難行動

すぐに避難! 車は使用しない!

非常持ち出し品を持ってすぐに避難しましょう。東日本大震災では車で避難して助かった人もいますが、道路の渋滞により、車ごと津波の犠牲になった人もたくさんいました。避難は徒歩が原則です。

特別な事情があるとき以外は歩いて避難しよう!

すぐに海岸や河川から離れる!

揺れが収まりしだい、直ちに海岸や河川から離れましょう。津波は河口から川をさかのぼり、堤防を越えてくるおそれもあります。

隣近所へ声掛けをする!

自分が危険を察知しても、隣近所の方が気付いていないことも考えられます。避難のときは、大きな声で避難を呼び掛けましょう。また、高齢者や要配慮者など、自分で避難することが難しい方がいたら、可能な限り避難の手助けをしましょう。

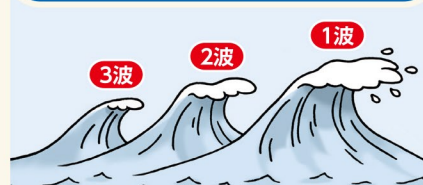
逃げ遅れたら頑丈な建物に避難!

万が一逃げ遅れた場合には、付近の津波避難ビルや高台へ、一時的に避難しましょう。

普段から避難できる場所を確認しておこう!

津波の注意点

津波は繰り返してくる!



津波は2波、3波と繰り返して襲ってきます。「警報」などが解除されるまでは避難しましょう。*2波、3波がより高い可能性もあります。

津波の高さに注意!



海岸の地形などによって予想された高さを超える津波が発生する場合があります。

津波のスピードは速い!



津波の速度は時速36km(秒速10m)程度あります。津波に気付いてからでは遅いので早めに避難しましょう。

引き潮がなくとも注意!



津波の前に必ず引き潮があるとは限りません。地震の起こり方や地形によっては引き潮が起こらない場合もあります。

満潮時は要注意!



満潮時は水位が高くなっているため、津波がより大きくなります。

弱い地震でも要注意!



弱い地震でも揺れが長く続いた時などは津波が襲ってくる可能性があります。